



平成 25 年 8 月 9 日

各 位

会 社 名 岡藤ホールディングス株式会社
代 表 者 名 取締役社長 小 崎 隆 司
(J A S D A Q ・ コード 8 7 0 5)
問 合 せ 先
役 職 ・ 氏 名 取 締 役 杉 本 卓 士
電 話 0 3 - 5 5 4 3 - 8 7 0 5

平成 26 年 3 月期第 1 四半期の連結業績見通しに関するお知らせ

平成 26 年 3 月期第 1 四半期累計期間（平成 25 年 4 月 1 日～平成 25 年 6 月 30 日）の連結業績につきましては現在集計中ではありますが、決算の概要がまとまりましたので、業績見込みをお知らせいたしますとともに、前年同期実績と比較して差異が生じる見込みとなりましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成 26 年 3 月期第 1 四半期累計期間の連結業績見込みおよび業績との差異

(単位：百万円)

| | 営業収益 | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 |
|--|-------|------|------|-------|
| 前年同期実績 (平成 25 年 3 月期第 1 四半期累計期間) (A) | 1,271 | △32 | 8 | △54 |
| 当期実績見込み (平成 26 年 3 月期第 1 四半期累計期間) (B) | 1,416 | 258 | 296 | 212 |
| 増 減 額 (B－A) | 145 | 290 | 288 | 266 |
| 増 減 率 (%) (ご参考) 平成 25 年 3 月期実績 | 11.4 | — | — | — |

2. 差異が生じた理由

当第 1 四半期連結累計期間におけるわが国経済は、金融緩和や各種経済対策の効果もあって公共投資が増加し、海外経済の成長から輸出や生産に持ち直しの動きが見られ、企業業績の改善から設備投資も回復傾向となりました。雇用情勢は厳しさが続くなかでも改善しつつあり、個人消費も底堅さを増すなど内需にも強さが見られました。

商品市況は、米国株高を背景として金を中心に貴金属が下落傾向となった一方、穀物はひっ迫感の強い大豆が上昇、石油は横ばい推移となり、全国市場売買高は16,082千枚（前年同期比124.7%）となりました。

このような状況のなか、当社グループの中核事業である商品取引関連事業における受取手数料は1,257百万円（前年同期比125.5%）となりました。また、売買損益につきましては、石油市場における売買損益が減少したこともあり、17百万円の利益（前年同期比12.2%）となりました。

この結果、営業収益は1,416百万円（前年同期比111.4%）となる見込みであります。また、営業費用につきましては、事業再編による経費削減効果が現れたこともあり、1,158百万円（前年同期比88.8%）となる見込みであります。これらにより、営業利益は258百万円（前年同期は32百万円の営業損失）、経常利益は296百万円（前年同期は8百万円の経常利益）、四半期純利益は212百万円（前年同期は54百万円の四半期純損失）をそれぞれ計上する見込みであります。

以 上